

令和7年度 第1回草津市環境審議会 会議録（概要）

■日時：

令和7年8月5日（火） 14時00分 ～ 16時30分

■場所：

市役所4階 行政委員会室

■出席委員：

小林 圭介 委員(会長)、樋口 能士 委員(副会長)、壽崎 かすみ 委員、山川 正信 委員、横田 岳人 委員、田仲 輝子 委員、丹羽 浩之 委員、上野 淳 委員、北脇 芳和 委員、西田 幸子 委員、宮城 成和 委員、米田 吉克 委員、柿本 理乃 委員、中井 あずさ 委員、松村 幸子 委員、森 毅 委員

■欠席委員：

岡 嘉得 委員、向井 芳枝 委員

■事務局：

環境経済部	太田部長、山田副部長
環境政策課	大野課長、長江係長、福永副係長、関主査
温暖化対策室	森下室長、津田係長
資源循環推進課	石松係長

■傍聴者：

1名

■議題等：

報告事項

- ・第3次草津市環境基本計画の進捗状況の確認について

その他

- ・草津市地球温暖化対策実行計画について

1. 開会、部長挨拶

本日御出席の皆様におかれましては、御多用の中、草津市環境審議会に御出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

本日は、第3次草津市環境基本計画の進捗状況および草津市地球温暖化対策実行計画の策定について、御報告をさせていただくものでございます。

委員の皆様方には、慎重かつ活発な御審議をお願いいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

2. 議事概要

(1) 報告事項 第3次草津市環境基本計画の進捗状況の確認について

- 資料1 : 第3次草津市環境基本計画 体系図
- 資料2 : 第3次草津市環境基本計画 達成目標進捗調査票
- 資料3 : 第3次草津市環境基本計画 関連事業の進捗状況について
- 資料4 : 第3次草津市環境基本計画 重点事業取組状況
- 参考資料 : 第3次草津市環境基本計画 関連事業進捗調査票

【事務局】

＜資料1～4について説明＞

【会長】

1人1人に御意見をお伺したい。

【委員】

日傘の利用が増えていることは、計画と関係あるのか。あまり市の政策とは関係なく、日差しの強さで増えているような気がしなくもない。

ごみが思うように減っていないところが気になった。

「愛する地球のために約束する協定」について、どうすれば企業の協力が得られるのか考えないといけない。

こども環境会議に参加するには、年齢制限はあるのか。

【事務局】

小学生、中学生をターゲットとしているが、年齢制限は設けていない。

【委員】

市民の認知度がアップし、行動に繋がっていることがわかる内容の資料がほしい。

効果は大きくないが、意識して取り組んでもらえるものを広めるのか、効果があるものを関心のある人に広げ、周りに広まっていくというような効果を期待するのか、何か的を絞った方がいい。

より市民が気づき、行動しようと思うようなものを提示し、アピールできないかというのが正直な感想である。

【委員】

指標の数値の状況を確認するプロセスが大事なのであって、数値の良し悪しに執着すると、数値を上げることに熱心になり、本来考えるべき事柄を見失ってしまう。

基本方針ごとに指標のほか、具体的な施策がある。達成状況が数値で表せなくてもよいので、各項目に関する取組内容を列挙することで、取り組めたこと、できていないことがわかる。指標は評価に一定必要な部分として捉え、中身である取組を見詰めるとうい。例えば、行政の取組だけでなく、社会や学校での取組内容を聞いて、まとめるようなことも必要かと思う。

参考資料4を見ると、踏み込んだ取組がないと思うので、少し踏み込んでここまでやったと言えるようなものが増えると、より進展すると思う。

【会長】

細かく数値的に出せるならば、評価の手法を検討してもらいたい。

【事務局】

「日傘等推進事業」については、こどもたちに熱中症予防の重要性が伝わるよう、チラシの内容を工夫することにより、家庭における日傘の利用割合が増加したので、一定、行政の働きかけが影響した部分はあると考えている。

御指摘のとおり、行政の働きかけと個人の意識の変化は必ずしも直結しないと思うが、個々の事業のアウトカムについて、適切に評価していくことが大事だと考えている。

【委員】

ヌートリアの被害が現在ほとんどないとのことだが、ヌートリアがいなくなった原因について見解があれば教えてもらいたい。

【事務局】

原因は不明だが、目撃情報はああるものの、被害は少ないと感じている。

【委員】

被害はないかもしれないが、多く生息している。平湖や下物の湖岸のあたりにはたくさんいるが、蓮根の被害はないのか。

【事務局】

蓮根の被害は聞いていない。

【事務局】

ヌートリアについては、農作物被害が多かったのが実情である。生息しているとは思いますが、農家の皆様による個々の対策が進んでいることも、捕獲数の減少要因の一つであるとは思う。

【委員】

小学校では環境のことも考えなければならないが、命や安全に関わる熱中症対策が最優先となるので、環境と命・安全への意識の両立が一番の課題ではないかと認識している。

ごみの減量の話でもあったように、何らかの指導や制約をきっかけに意識ができるものもあると

思う。

【委員】

家庭系ごみの量が令和２年度と比べると大体１５％ぐらい削減されているが、要因は何か。

【事務局】

家庭系ごみの量が減少した要因としては、物価の高騰や、令和５年１０月からの焼却ごみ袋の有料化等によるものと分析している。

事業系ごみについては、新型コロナウイルスによる経済活動の停滞から戻りつつあるが、令和５年４月からクリーンセンターへの一般廃棄物の持込み手数料を値上げした関係で、令和４年度から令和５年度にかけてごみの量が減少しているものと分析している。

【委員】

P D C Aの観点からも、説明のあった内容を資料にも記載すると、理解が進むのではないか。

河川の水質における環境管理基準（B O D）の達成ができなかったとのことだが、狼川と伊佐々川に排水している事業者はこの結果を共有しているか。

【事務局】

狼川だけの超過であり、狼川に連なる事業所に限定しての情報共有はしていないが、ホームページにおいて定期河川の水質調査結果として公開している。

【委員】

ホームページを見る機会が少ないので、関係書類の届出や立入りのタイミングでも構わないので、事業者の結果を共有し、意識を高めてもらうことが大事だと思う。

【委員】

毎日琵琶湖に出ているが、ごみがたくさん流れている。なぜ、家に持ち帰り、分別し、捨てることができないのかと思う。大変困っているので、啓発活動をしてもらいたい。

【事務局】

ほぼ毎日、不法投棄のパトロールを実施しており、特に湖岸沿いの公園や駐車場におけるポイ捨てごみが非常に多いと認識しているので、重点箇所指定したうえで、啓発に努めている。

【委員】

地域住民を巻き込んで、取り組んでいることがたくさんあるが、なぜ環境のために取り組む必要があるのかを子どもや若者において深めてもらうことができれば、活性化すると思う。

【委員】

指標の数値よりも、実際に取り組んだ内容が大事であって、せっかくよい取組であっても数値が伴わないのでだめということではなく、数値は低くても内容が充実しているものはあると思うので、難しいかもしれないが、取組内容に着目した評価をする必要性があると思う。

狼川におけるB O Dについては、これまでから市で調査を続けているが、大津市瀬田方面からの水の流量が多いので、大津市域の調査をしたほうがよいと思う。

【委員】

「５．健全な生活環境の保全」の「法令に基づいた指導件数」について、目標値を達成した理由

が事業所等への立入り件数自体の減少とのことだったが、達成して当たり前の目標であれば、企業なら補正をするか、目標を変えるか、どちらかの手法をとると思う。この目標値を活かすのであれば、同じ比率ならこのくらいの件数という趣旨の記載をしてもらえるとありがたい。

「2. 気候変動への対策（緩和と適応）」では、実績値にほとんど変化がないという傾向に大いに疑問がある。これだけ地球温暖化が話題となる中で、エコスタイルコンテストなど全国でも稀有な活動をしているのに、数値が上がらない傾向なのは、実績の捉え方の軸が違うのかもしれない。今日見解を示してもらうのは困難だと思うが、このままでは、努力していないのではないかなと言われかねないので、今後検討してもらいたい。

【会長】

事務局と相談しながら、御意見について考えていきたい。

【委員】

家において3～5分でできることの提案や合言葉などがあれば、ごみの減量やごみ拾いも取り組みやすいと思う。資料では令和8年度に向けての改善策が記載されているが、結局、家でどのように取り組みればよいのか、こどもにどのように伝えればよいのか分からない。そのような提案があれば、家に帰ってから伝えられると思うので、行動に移しやすいと思う。

【事務局】

基本計画は市民の皆様と一緒に協働で進めることが大前提であり、各主体の役割を全ての施策において示しており、市民の皆様の役割も記載している。御家族に伝えていただけるのであれば、参考にしてもらいたい。

【委員】

取組状況を踏まえ、令和6年度から令和7年度に向けて、これに取り組むという何かメッセージをいただきたかったというのが意見である。

【委員】

ごみ袋の有料化については、ごみの処理に多くの費用がかかることを考えると、もう少し高くてもいいのではと思わないでもない。

私たちの学区では、ホテルの観察など自然に関する取組をしているが、高齢の方にリーダーを務めていただくことが多く、指導者の確保といった観点において先を見通すことは難しいと感じるので、どのように若い方を巻き込むかが課題であると思う。

【委員】

市や学校の取組でこどもたちに環境について教えることはとても大事なことで、指導者不足という課題はあると思うが、行政も一緒に考えながら取り組んでいただきたい。

小さな取組が環境のために大事ということを知らないと、取組が広がっていかないと思うので、こどもたちに伝える取組を進めるとよいと思う。

【会長】

身の回りの小さな取組が環境に関する文化であり、「環境文化」として環境に関する様々な計画の原点となっていることを御理解いただければと思う。

【委員】

ごみ袋の有料化はごみが減少した大きな要因となっているのではないかと。

以前と比べると、市の資源回収に参加する町内会が減少していると感じるため、実施していない町内会にも参加を促す必要があると思う。

学校だけではなく、各家庭においてもリサイクルの大切さなどをこどもに伝える取組ができればよいと思う。また、生ごみの堆肥化についても、より市民に協力してもらえよう、わかりやすく伝えていきたい。

【委員】

環境基本計画を策定し、審議会で進捗を管理するのは、おそらく草津市が最初であったかと思うが、現在では他市でも実施しており、草津市がリードして取り組めたことは非常に良かったと思う。

何らかのメリットがないと、温暖化対策や環境学習に取り組んでもらいにくいのではないかと。温暖化対策実行計画の策定の際には、エコアクションポイント制度が有効との意見が多かったが、このような制度を市民が知っていないといけない。市の広報において、毎月とは言わないまでも、しつこいくらいに取組内容を周知しなければならないと思う。

狼川におけるBODについては、ここ数年で上下している原因を明らかにしたうえで、具体的な対策をしないと、解決することは困難だと思う。

【副会長】

何に対しても数値目標を決めるという時期があったと思うが、今日の議論では数値に固執するのはよくないという御意見が多かったように思う。いったん設定した目標を取り下げることはいないので、数値は示す必要はあるかと思うが、大事なのは実際の取組内容がどうであったかである。次期計画では、数値目標を設ける項目と定性的に評価する項目というようにメリハリをつけてもよいのではないかと。数値目標を設けられないからといって、項目ごと消すのではなく、より取組内容を評価するのが大事だと思う。資料4の重点事業取組状況は、数字に影響されずに状況を丁寧にまとめられている。数値目標は設けるものの、困難な場合は設けず、まとめを充実する方向がよい。

環境に優しい行動に関する情報を入手することは難しいと思うので、多くの内容を発信しなくとも、毎週一言でもできれば、小さな行動に繋がるのではないかと。これからは、人を集めてイベントを開催するよりも、日々の小さな発信にシフトしたほうが、周知に繋がると思う。

ごみの減量に関しては、ごみ袋の有料化はそれなりに効果的であるが、費用負担を生じさせることで削減に努めるので、ごみ袋の値段を上げたとしてもあまり効果はないように思う。しばらくは静観でよいと思うが、袋のサイズなどの使い勝手に関する点は、市民の意見を聞くとよいと思う。

家庭ごみの発生量は継続して減少しているものの、事業者のごみは微妙という傾向は、滋賀県全体で類似している。一方で、事業者も製品の工夫や廃品の回収といった努力をしているが、県によると、どれくらい削減につながったか、一部しか把握できていないとのことだったので、事業者から情報提供を受けて、事業者の削減に向けた取組の成果を数値化できればよいと思う。

【会長】

各委員の御意見は、事務局から担当課に伝えてもらったうえで、来年度の事業に反映させてもら

いたい。

(2) その他 草津市地球温暖化対策実行計画について

参考資料 5 第5次草津市地球冷やしたいプロジェクト

～草津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）～【概要版】

【事務局】

＜令和7年度より開始した第5次草津市地球冷やしたいプロジェクトに基づく取組に関し、遮熱カーテン設置支援の状況などについて、市民アンケート結果を交えて説明＞

【委員】

「愛する地球のために約束する協定」の締結が、中小企業にかかる脱炭素施策に対する補助金の交付要件ではなかったか。達成目標の数値も増加すると思う。

【事務局】

御指摘のとおり要件としている。協定を締結いただいた方のアピールだけではなく、協定の締結により経済的な支援を受けることのできる仕組みを作ることで、具体的な取組も進むように政策を展開してまいりたい。

3. 閉会

【副会長】

副会長の職を長年にわたり務めていただいた、立命館大学名誉教授の山田淳先生が2月に逝去された。山田先生の御冥福をお祈りいただきたい。

草津市地球温暖化対策実行計画の報告において、遮熱カーテンの設置にかかる支援の申請が増えているとのことで、温暖化対策について考えるよい契機になるという成功事例が出てきており、大変うれしく思っている。今後、ますます取組を進めてもらいたい。

【事務局】

これをもって、令和7年度第1回草津市環境審議会を閉会させていただく。